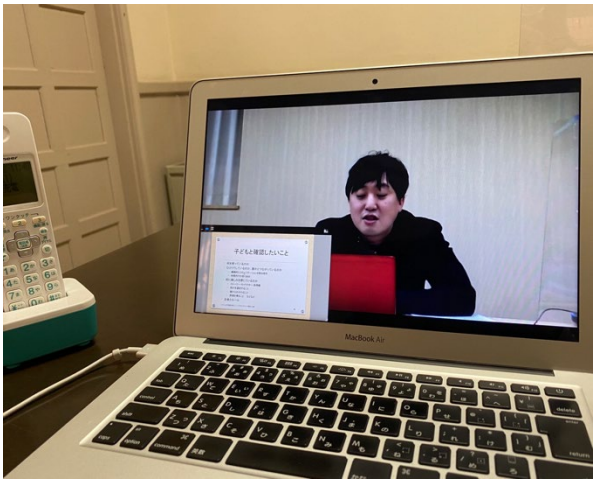
令和２年度 NPO 活動推進補助金　活動報告書

事　業　名	不登校児童生徒と保護者への臨床心理学的支援活動事業
団　体　名	特定非営利活動法人九州大学こころとそだちの相談室
法人設立年月	平成 18 年 11 月 1 日
団体の目的	臨床心理学の専門家による活動を通し、地域住民のこころのウェルネスに貢献すること並びに臨床心理学の専門家の資質を向上させるべく臨床心理学の実践活動を展開する。
主 な 活 動	カウンセリングルーム「こだち」カウンセリング事業/フリースペース「ここりーと」/家庭学習支援事業/各種研修事業
補助の概要	**１　事業を実施した背景** 不登校児童生徒の支援においては、適応指導教室などの公的な支援やフリースクールなどの教育的支援は充実してきたが、そこに乗れない引きこもりがちな児童生徒の支援を行う場が少ない。また、不登校になった時にインターネット等で情報を集める事は出来やすくなったが、保護者が生の声、体験談を専門家がいる安全な場で体験する機会は少ない。さらに、新型コロナウイルス感染拡大に伴う長引く休校、重なる喪失体験、見通しの持てない状況により心身へのストレスや生活リズムの崩れによって、休校解除後も様々なタイプの不適応や心身の反応を示す児童生徒が増えることが懸念された。令和元年度に補助をいただいた際には、ニーズを持ちながら支援機関とつながることのできていない家庭、我が子の不登校等の問題に対して親自身が支えを必要としている家庭も地域には潜在的に多いことがわかった。また、新型コロナウイルスの影響で不安が不安を呼ぶ悪循環に陥っているため、親も子どもも周囲の者も、当人に適した専門的な理解の仕方や関わり方を学ぶ機会が必要と考えられ、親子を支援すると共に、発達の偏りや敏感さと不適応の関係、近年の特徴的な対人関係のあり方を学ぶことのできる講演会を行いたく、補助事業を実施した。 **２　事業内容とその成果** （１）事業内容：フリースペース「ここりーと」および不登校児童生徒の親の会「ここあんの会」をオンラインでも参加可能な形にして継続実施した。一般向けの講演会として九州大学准教授の古賀聡先生と小澤永治先生をお招きし、2020 年 10 月 31 日（土）10：00～12:00「親の心理と親子関係」、2020 年 12 月 12 日（土）10：00～12:00「子どもの理解」というテーマを設定しオンラインで開催した。 （２）成果：①フリースペース「ここりーと」の支援が充実化し、対象者が次の進路に挑戦するなど、行動が活性化した。②不登校児童生徒の親の会「ここあん」での参加者対象のアンケート調査では満足度の平均が前半 5.00、後半 5.00 と高かった（いずれも５段階評価）。継続している参加者においては、それぞれのお子さんが再登校に向かい、不調の予防や今後の進路、親の見守り方について話題になるようになった。③「心のふしぎ」講演会では、福岡市教育委員会の後援をいただき、小中学生の教職

員や保護者に広報し、一般市民の疑問に答える形で、発達の偏りについての理解や対応を深めた。アンケートの満足度は高く（とても満足、やや満足と答えた参加者の割合が９割）、発達支援のニーズのある子どもの保護者から「捉え方が変わった」、「ふに落ちた」等の理解に関する感想や、「具体的な方法を学んだ」という今後につながる感想があった。支援関係者からも「どのような言葉を用いて説明していくと良いか学ぶことができた」との反応があった。（写真は講演会の様子）



３　次年度以降の展望

ここりーとは対面で感染対策を行いながら継続し、感染拡大状況に合わせてオンラインでの活動をどうするか検討する。ここあんの会は担当者の関係で一旦休止し、今後はオンラインも含めた、発達支援のニーズがある子どもの理解や不適応の理解について一般市民の皆様のニーズに届く講演会や情報交流会を行い、当事者が困ったことや不安を適切な形で表現して安定や意欲の向上を目指す支援を行いながら、周囲の者が適切に関わりつなぐことができるような啓蒙活動にも力を入れていく。

補足⑴上記項目を満たしていれば、本様式以外を使用しても構いません。別紙記載例を参照してください。パワーポイント等で作成される場合は、10 ページ以内とします。

⑵活動写真を２、３枚程度添付してください。

⑶この報告書は、市ホームページに掲載するとともに、寄付者に送付している活動報告書を作成する際に活用させていただきます。